



絵本 I  
ヴァンナ

おはなしのへやだより  
おはなしのへやだより  
おはなしのへやだより

おはなしのへやだより

女の子の健やかな成長と幸せを願うお雛さまを飾る季節が過ぎ、いよいよ水ぬるむ季節の到来です。重い冬のコートをぬぎ、身も軽やかに、子どもたちは外遊びをおねだりし、楽しむことでしょう。  
3月は別れの寂しさを味わう季節ではありますが、すばらしい新しい出会いがあることを期待して過ごせるといいですね。「絵本塾・おはなしのへや」が、参加して下さる方々のよき出会い、交わりとくつろぎの場となれば大変嬉しいです。

2016年 4月のご案内

日時 4月8日(金) 午前10:30~12:00 昼食  
場所 日本キリスト改革派 浜松教会 (お問い合わせ: 望月鈴子へ)  
(432-8022) 中区山手町45-3 ☎: 053・453・1694  
会費 500円 (一人でも親子何人でも) 講座、昼食、お便り  
<Part I> 一緒に遊ぼう <Part II> 絵本から考える  
手遊び、リズム遊び、絵本: ぶたぶたくんのおかいもの  
絵本 土方久功 さく/え 福音館書店  
パネル・シアター 他 テーマ: 何がおもしろい? 愉快をさがす



人生を彩る出会いと別れ



一年の巡りの中で、三月は「別れ」が一番多い季節ではないでしょうか。そして四月は「出会い」の喜びが満ちる季節と言えるでしょうか。人は、幾度となくこの「出会い」の喜びと「別れ」の切なさを繰り返し味わいながら、日々の営みを積み重ね、人生を紡いでいると言えるかもしれません。

絵本: はじまりのはな  
マイケル・J・ローゼン 文  
ソーニャ・ダノフスキ 絵  
蜂詞 耳訳  
くもん出版

絵本「はじまりのはな」は、あかいほっぺの渡り鳥・ローザの「出会いと別れ」の物語です。切なくなるような繊細さ、美しさ、静かさをたたえた絵に心が吸い込まれていきそうになります。しかもホッとするような温かさをも感じさせてくれます。シンプルでありつつ優しさや温もりを感じさせてくれる言葉が、心に穏やかにながれていきます。

渡り鳥のローザは、自分のほっぺたと同じ赤い色のくほっぺのはな>が大好き。自分でくほっぺのはな>と名付けた。くほっぺのはな>は、ほかのどの花よりも早く咲き、どの花よりも長く咲き続けている春の始まりを告げる花。夏が過ぎ、秋が来て旅立つ時が来た。くほっぺのはな>の種を手放すことができなくて、籠に入れて首に下げて飛び立った。渡りの途中、疲れて川に落ちて仲間とはぐれたローザは、犬のミールとその飼い主アンナに助けられた。ローザは、ミールとアンナの家でくほっぺのはな>の種をまき、育てながら冬を過ごし春を待つ。あかいほっぺの鳥たち・群れからはずれ、人間たちの暮らしになじみ溶け込んでいく。季節は巡り、くほっぺのはな>が咲き、仲間たちとの再会の時が訪れた。ランタンの光に誘われて飛んできた仲間の鳥たちがくほっぺのはな>を見つけ、ローザと再会し喜んだ。その喜びは、次の別れの寂しさ・切なさへとつながっていく……

「はじまりのはな」の原題は「THE FOREVER FLOWERS」、永遠の花です。移り変わり巡り来る季節とともに咲いては枯れ、枯れては咲く花たちは種となり、球根となり次へと命をつないでいきます。人の命の循環は何にも増して尊く、その尊い人生を「出会いと別れ」が彩っていきます。人にとって最初の感動的な出会いは、新しい命の誕生であり、「わたし」の父・母との出会いではないでしょうか。子は父・母と出会い、愛に生まれ信頼を育てて成長していくことが出来たら大変幸いだと思います。出会いがあれば別れが訪れるのも必然です。人は、数えることが出来ないほどの「出会いと別れ」を繰り返し、積み重ねて人生を歩んでいきます。それぞれによき出会いがあるように願っています。とりわけ、これからたくさんの「出会いと別れ」を重ねていく子どもたちに幸いなお会いがあり、友として繋がり合える交わり関係を築くことができるようにと心より願っています。良い交わり関係は、たとえ別れの時が訪れても、より深く、豊かな広がりを持ってその人生を彩ってくれることと思います。

「はじまりのはな」のくほっぺのはな>は何の花なのか名前が出てきませんが、絵を見るとクリスマスローズではないかと思えます。この花は春まだ浅くに咲きはじめ、命の息吹が満ち満ちる時にもまだ花をつけています。この絵本を読んだ時、クリスマスローズは“春の始まりを告げる花”だとうなずけました。イエス・キリストの復活を祝うイースターを思い起こさせる花です。イエス様との出会いもありますように。

